

大友幕下諸士反逆之事

耳川の敗軍、世上に隠れなく、老功の軍将数をつくして討死すと聞て、国々旗下の諸士、此彼所に蜂起す。又は逆心なき輩も、己が居城に気を遣ひ、籠城して居たりければ、豊府へ參するもの一人もなし。先、肥前の国には、龍造寺隆信、筑前、豊前迄打て出、秋月、筑紫も心を合せ、戸次、高橋と合戦數日を送る。豊前國は逆意を企る人々には、香春城主長野二郎左衛門助盛、岩石城主高橋九郎長幸、城井城主宇都宮民部少輔鎮房、蓑島領主杉一學重吉、宇留津城主加來孫兵衛惟庚、長岩城主野中兵庫頭鎮兼、広津城主広津治部丞鎮次、佐野城主佐野源右衛門親重、時枝城守時枝大夫鎮継。是等は皆大友の行跡を疎み、紹忍を恨み、或は竜造寺、秋月に組し、或は毛利に内通し、己々が居城に引籠り、豊府への出仕を止めにける。是のみならず、肥後國には宇土座兵衛尉行直、城越前守、合志、詫摩、赤星、隈郎等大友の下知に従はす。かく国々騒動しければ、何れの国へ誰を討手に向べしとも見えず。只忙然たる計なり。

両豊記 天正7年正月